

会報

第659号
2021年2月
札幌友の会

2月24日現在	会員数	671人
会厚	別	54
新札	札幌	53
平岡	岡石	41
白が	岡石	60
羊豊	丘平	49
	西	50
	角	48
	山	53
	央山	54
	鼻山	44
	内	47
	内	54
	苺	48
	信	86
	駒	5
	木	8
	通	6
	3月末より	22人減

二月 オンライン例会

二月例会 2月4日(木)

司会 朝倉(桜山)

讚美歌 320番

読書「人生の急所をきめる人」

思想しつつ生活しつつ下

総リーダー

桜山方面リーダー 朝倉

山鼻方面リーダー 小河

新年度に向かって

推進委員 門脇

2020年家計報告から 生活部

家計塾で予算を立てられました

白石方面 瀬戸

2020年度

全国農村愛土生活研究会

出席者紹介

土曜例会のお知らせ

新入転入お客様紹介

実務報告

讚美歌 312番



例会当日 友の家

新入転入お客様紹介 2人
実務報告 実務 広報部
出席 187人

読書 「人生の急所をきめる人」

総リーダー 阿波加 寿美代

新しい年がどんな年であっても、希望を持って歩みたいと友の新聞(749号)の新年言志に思いを寄せました。

「つながりを求める気持ち、生活に真摯に向き合う姿勢、例会をどれほど大事に思っているか、友の会を求める強い気持ち、いつもの年であれば強く感じるこゝろとがでなかつたかもしれない皆の思いを、こんな年だからこそ感じ取ることができたことは、私にとって恵みでした。」

(中略)

新しい年も少しづつ前に歩みを進めたい。思ったことをできなかつたこの一年が決して停滞でなく、友の会が新たに生まれ変わる準備の時間だったのだと今思えます。コロナ禍の気づきは、次に立ち上がる力になると信じています」

ます。

会えない集まらない、思うように活動ができない中で、せつかく手をつないだ人が離れていこうとするのは本当に苦しいです。先日の委員会で、退会を考慮している人の状況を聞き合う時間を持ちました。

「仕事が忙しくて活動できなない」「自分がやりたくないことをやらされる」「連絡がとれない」一人ひとりの状況や言葉を伝える方面リーダーからは、精一杯関わっても気持ち離れていくことの無念さがにじみ出ていました。委員会皆で一人ひとりを思い浮かべ、その人の思いに気持ちを寄せ、また関わる自分はどうあったらいいかを返される時間になりました。いてさえくれれば、時間がかかってもわかり合えることを信じられます。共に交わり育ち合いたい、手を離したくない、その思いで気持ちを受け止めていきたいと思えます。

「ダ」を生み出していくかの話し合いの時、「例会もできなかつたし、実感も持てなかつただろうから、もう一年総リーダーをやってほしい」という方面リーダーの言葉に、思わず「例会をしないと総リーダーではないんですか」と返してしまいました。どうしてそんなにこたえたのかと冷静になつて考えました。思うようにならない難しい状況で歩んでいる方面リーダーと自分をいつも重ね、同じ気持ちだと思っていた方面リーダーにわかつてもらえていなかったのかと悲しかったのだと思えます。

その後「あなたの声」で「一緒にやった実感を持ちたい、読書が聞きたい、もつと知りたい、大ホールで会いたい」とたくさん声を聞かうち、札幌友の会の総リーダーとして尊重してくれる皆の思いが私に届いてきました。例会がなくても私は総リーダーを務めた実感があるけれど、みんなは一緒にした実感がなかつたのかと気がつくと同時に、普通の年に総リーダーを経験させてあげたいという方面リーダーの思いも受け止

めました。みんなの思いに感謝を込めて、3月まで精一杯全うさせてもらいます。

12月にオンラインで開かれた全国U6プロジェクトに、子ども部・生活団指導者と共に出席しました。会

員の高齢化と会員減少は全国どこの友の会も同じで、U6のことは取り組みたくても、高齢者ばかりで若い人も子どももいないので何もしない、どうしたらいいかわからないと次々と声が出された時、友の会代表の山崎みどりさんが、もう黙ってはいられないという勢いで発言されました。「今は小さな子どもを持つお母さんが生きづらい世の中です。電車で泣けば怒られ、うるさいとマンションに貼り紙され、特にコロナになってからは、遊んでいるだけで白い目で見られるようになった。私たちがやらなければならぬのは子どもを集めて読み聞かせすることばかりではありませんよ。『子どもの声が聞こえるっていいですね』と子ども嫌いの隣のおじいさんに言うんですよ。子どもが

いることが楽しくて素晴らしいことだと、そういう気持ちや空気を社会に広げることが友の会には必要だと思いますよ」と力強く話され、代表の熱を画面からまともに受けた私たちも胸を熱くしました。

集まれなくても、できることはある。買い物するときでも、散歩のときでも、若い親子を見たら声をかけるおばさんをやり続けようと思いました。「子どもがいると嬉しい」と若いお母さんにも伝えたい、居場所がないような気がしている親子に「居場所はあるんだよ」と伝えたいです。人と人が温かく結ばれ、生きていくことが幸せだと思える温かい空気あふれる愛の社会のために、人として、友の会としての使命は、その実現のためにあると思えました。雑談の場合でも部屋の掃除でも、私たちのふれる日常の場合において、常にその急所に向かって頭と手を働かせるように、自分をも他人をも深く見て、やはりほんとうに言いたいと思うこと、したいと思うことをするように。それがすなわち急所であり、自分の第一要求であります。「人生の急所をきめる人」
思想しつづ生活しつづ下

桜山方面リーダー 朝倉 美智代



このコロナ禍でも方面の人を「つないでいこう」と受けた桜山方面になって2度目の方面リーダーでした。他の方面リーダーが委員会で新しいことにいきいきと取り組んでいる様子が伝わって来ました。私は何かしたいと思う気持ちも伝えられず、何もしていないのではとウツウツしていましたが、方面会で聞いてもらおうと、気持ちが軽くなりました。そして最寄リーダーが最寄の人とつながろうとする思いを最寄リーダー報告から感じ、私も何か出来ないかと考え「あなたの声を届けてください」にひと言添えて渡すことにしました。書き始めると一人ひとりの顔が浮かびスラスラと書いている自分に驚きました。「大丈夫、私も方面の人とつながっている」と実感しました。

1月には、有職の人や家庭の事情で最寄にも出られない人までたくさんの「あなたの声」が届きました。全て読み終えるとみんなに会えたようで友の会への思いも伝わって来ました。みんなの状況がわかると元気になると「あなたの声」の中の近況と友の会に寄せる思いをコピーして最寄に一冊ずつ渡しました。オンラインにつながれず友の会が遠くに感じていた人は「取り残されたような不安な気持ちがあったけれど、皆の様子を共有することができ、身近に感じた」と嬉しい声も届きました。

「自分をも他人をも深く見て、やはりほんとうに言いたいと思うこと、したいと思うことをするように。それがすなわち急所であり、自分の第一要求であります」この言葉が私の気持ちと重なりました。これまでの経験を足場にして、来年の方面をみんなと描いていきたいです。

山鼻方面リーダー 小河 清美



昨年9月、8カ月ぶりにようやく方面会をすることが出来、出席者一人ひとりの様子を聞き合い、久しぶりに会えたことを喜び合いました。1月末に初めてオンラインで方面会をしました。集まりが持たず新年度のことをどのように話し合えるのか心配でしたが、顔をあわせて皆といきかきができ、よい選びをして進んでいけると希望がわきました。「自分をも他人をも深く見て、やはりほんとうに言いたいと思うこと、したいと思うことをするように。それがすなわち急所であり、自分の第一要求であります」が目にとまり、方面皆で正直な思いを出し合うことを大事にしていきたいと思えます。

また、札幌友の会90周年に向かって「最寄と私」の方面の人の原稿を読みました。私の最寄で書いてくれた人は入会して30年の人です。20年間、有職者として一緒に活動はできませんでしたが「退会を選ばなかったのは最寄の人達とつながっていたい」との思いからでした。最寄の人達は何かと声をかけてくださり、自分の居場所があると思うことができた」と書いていました。最寄で共有した時間と築いた信頼でつながることが出来たと思えました。私も人との交わりの中で気づくことが出来たり、苦手なこともやってみようという気持ちになりました。友の国の歌詞「人ひとり居るはよからずーと、そうして人に友があった。同じ意志につくられた あらゆるものの類さえ悉く友である。人ひとり居るはよからずーと宣いしもの、私たちはわが友とよばれたい」が浮かんできます。その思いをもち、つながっていきたく思います。

新年度に向かって

推進委員 大浦 美知留

1月27日 委員会

委員会は「例会を作る」「各方面のことを皆で分かり合う」「札幌のことを皆で決めていく場」としてきました。2時間の中でそのことが出来ない時に、委員会は何をするとするか、何を大事にしたら良いかを考え合いました。

方面リーダーからは委員会には新しい人が座り、経験者を増やしたい。有職者も座れる委員会になって欲しいと出されました。経験を重ねることが、人が育てられることに繋がるのではと話し合いました。

また、今年度3回行われた方面リーダー会は、少人数で活発に話し合え充実していた。新年度も続けていきたいとの声が多くありました。人数が少なければ、思いを深めていくこともできるが、たくさんの中で思いを広める良さもある。この相反することに、どうしたら良いかを、部のリーダー会や係リーダー会の役割も含めて、新しい委員会を今後も話し合っていきます。

2月16日 係リーダー会

コロナ禍のため3月からでき

なかつた係リーダー会がようやくオンラインで実現しました。

生活部

3人でできることをやってきたが、係リーダー会で相談し、皆で共有することが大切だと思つた。困っていることを出すと、皆に助けってもらえるという実感があつた。

講習部

お茶クラス 消毒の徹底、お茶室を開け放して、密にならないように、時間を調整して再開できないか考えている。

ステップアップ塾 4月からの生徒は募集しない。新年度は練習の年に。これにはオンラインでの料理教室などの発信してもらいたいと皆から出された。手を動かす会 様子を見ながら、出来る状況になったら教室を開きたい。

子ども部

託児 係会を一度持てた。子ども室の布のおもちやの洗濯や、エプロンの製作をお願いした。

乳幼児G 9月と10月乳幼児Gリーダー会で時間しらべができた。

乳幼児の母と会って話すことが大事なことと思うので、何かいい方法はないかと思つている。

幼児生活団 登団などの判断を

迫られた1年だった。今年は、午前中の登団をしている。守られて卒団にまでになった。会報

やホームページで子どもたちの様子を伝えてきた。

経済部

会費と個人の友の家醸金で友の会活動が助けられた1年だった。

生産部

衣生産 例会販売がなかったが、予約・注文などでほぼ予定通りの売上ができた。これまでとは違うやり方を考えていきたい。

食生産 共同購入配達に合わせ*衣生産、食生産が友の会の中のどのような位置でやっていくのか、皆の中で考えていきたい。

購買部

共同購入 季節物は協力があつていつも通りの注文があつた。密にならない働きをしてきたが、今後はスタッフの負担や動き方も考えていきたい。

総務部

友の家 係が10月末に冬囲いした後は、近隣のスタッフが友の家の様子を見に行つている。

事務局 会報や日程表の印刷などをしてきた。

奉仕部 共働学舎肉

肉は冷凍肉、届いたその日に方面から取りに来るか配達。今は部のリーダーの応援で肉を分け

広報部

会報 係リーダー会がない中で、会報紙面をどう作っていくか、ということに苦心した。発行を続けられたのは事務局や届けてくれる人の協力があつてこそ。会報は今まで以上に気持ちを入れ、時間を割いてきた。

コンピューター室 ホームページで一人ひとりを繋げられないかと突き進んだ1年。これからは会報とホームページは両輪としてやっていきたい。

会員部 会員数・会費 集金は、大変だったとの声も多く、新年度は納入方法を考えている。会費は会員ひとり一人の動きが分かる大事な生命線だと思つている。

生活工芸

自宅で洗い布やティコゼーなど、手を動かし必要なものを製作しているうちに、新年度はどのようにしたらよいかが見えてきた。

部のリーダー会や委員会でも考えたことを、係リーダーと共有するのが難しかった一年でした。係を担っている責任と思いを聞き合い、改めて係リーダー会の重要性を感じました。総リーダーからは、新しくなることを恐れずに、新年度に向かつていきたいと話されました。

☆総リーダー選 2月1日 委員会

「あなたの声」で出された18人が、方面からの推薦で5人に絞られました。

- 北畠 美地子 (厚別)
- 小佐野志住子 (白石)
- 米澤 恵智子 (桜山)
- 朝倉 美智代 (桜山)
- 阿波加寿美代 (真駒内)

2月15日 委員会

新年度、どのような友の会にしたいか。一緒に歩む総リーダーの名前を聞き合い、2人に絞られました。

北畠 美地子さん (厚別)

若い人の気持ちに近い、若い人が立つことで友の会が拓けていく。90年続いた友の会を次の世代まで続くように一緒に考えたい。自分の思っていることを実現して欲しい。

小佐野 志住子さん (白石)

はつきりした意見をもって、新しいものに進んでいく力、実行力、発信力がある。有職者からは社会の風、空気を感ずる。仕事をしている小佐野さんが総リーダーができる友の会になつていきたい。

話し合いを通して、新しい札幌友の会を描きながら、皆から推薦する言葉が重ねられました。

皆で家計簿をつけましょう

生活部 成田 喜枝

◇2020年家計報告提出状況

方面(会員数)	提出数	集計数	新の人	収支決算
厚別(54)	42人	40人	0人	21人
新札幌(54)	40	38	0	23
平岡(41)	34	33	0	18
白石(60)	40	39	1	22
羊が丘(50)	28	27	0	21
豊平(49)	31	31	0	17
西(50)	29	27	0	13
三角山(50)	28	27	0	16
中央(53)	25	22	2	11
円山(55)	23	23	2	10
山鼻(44)	29	27	1	11
桜山(47)	29	24	0	11
真駒内(54)	26	26	0	12
木暮(8)	0	0	0	0
通楨(6)	2	1	0	0

12月末会員数 675人
 提出数(3~11カ月を含む) 406人
 集計数(12カ月) 385人
 新の人(初めて12カ月提出) 6人

収支決算

206人

対面での関りが難しい中、406人、昨年と同様の提出率60%あったことをまず喜びたいと思います。また、新の人の中には入会間もない人や退職されてからつけた人もいて、いつからでも家計簿記帳はできること、どの年代にも必要とされていることを感じることができました。

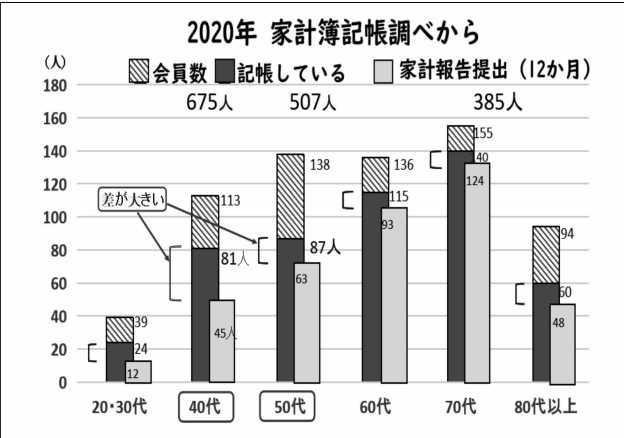
2月12日に行われた生活係リーダー会では、各方面の提出状況をもとに感じたことを聞き合いました。有職者グループでサポー

◇家計簿記帳調べから

婦人之友社以外の家計簿を

含め記帳している人の状況をグラフにしてみました。

家計簿をつけている人、つけ続けたい人が全体で507人もいることに驚き、若い40代に81人、50代に87人いるのはこれからの希望です。しかし、この教育



トを受け一昨年は提出できた人や小さな子どもがいる母は託児をすることで家計簿をつけられた人も記帳が続かず、コロナ禍で関わりが持てない歯がゆい現状も共有しました。今は見守り、感染状況が落ち着いたらすぐに行動を起こしていきたいと出されました。

そのような中、白石方面ではオンライン家計塾をしたり、山鼻方面からはZoomのグループラインの中でお互い励まし合いながら記帳を続けたなどが話されました。続けられない人には一人ひとりに丁寧な声をかけてきたという面もありました。オンラインであってもなくとも大切なことは人と人とのつながり、今できることを精一杯していこうと生活係リーダーの思いを聞くことができました。

費、住宅ローンを抱える40代、50代が1、2カ月でとどまっていける人が多く、なかなか12カ月つけ続けられていない事実も見えてきました。

私も住宅ローンと教育費を抱えた50代です。家計簿をつけているから毎年長男とおこづかいのことを話し合うことができま

す。長男にはおこづかいでカットなどから自分でカットするようになり、家族で話し合うことの大切さ、任せることが子どもの工夫や自信につながることに気づきました。教育費の山を乗り越えるための強い味方であることはもちろん、たくさん

2020年家計塾で
 予算を立てられました
 白石方面 瀬戸 さおり
 夫と私40代、4月から長女は中学生、二女は小学生になります。夫の転勤を機に急遽3月にマシオンを購入したこと、子ども達の将来を思うとこのままで大丈夫なのかと不安でした。

また、生活団の帰り道、スーパーで割引や半額シールを見つければ、今買わないと損した気分になり、「まっいいか!食べらんだし!」とつい買ってしまふこともしばしばです。食費を気にせずに捨ててしまうこともあり、予算があれば歯止めになるので、と思いましたが、でもコロナ禍で集まれないので1人で予算を立てることは難しいと思っていました。

でも、すぐに先輩達が動いてくれて、早速1月26日に『Zoomで白石家計塾』が方面リーダーと方面の大先輩と私の3人で始まり、Zoomで顔を見ながらだったので、そばに一緒にいるようでした。

「1月に12月分の肉の支払い

もつすく2月が終わりますね。記帳は続けられていますか。

をしたので、予算オーバーしているのですが大丈夫ですか? 予算を変えたほうがいいですか?」と質問しました。「大丈夫だよ! 1カ月毎でなく1年を通してみていくんだから、まずはやってみよう」と言われ安心しました。

2人の子どもの入学費用のことなどわからないことはすぐに聞けたので全部の予算を立てることができました。今までになかった住宅ローンや管理費などで住居家具費は以前の3倍近くになりましたが、家計の全体がつかめたのでむやみに不安がらずに、これを守っていけば大丈夫だと思えました。予算が決まってくれしいです。

1月はレシートを溜めずに記帳ができ予算を意識して生活ができました。早速1月31日に家計簿とにらめっこしながら閉めました。1月はお年玉をあげたり、住宅ローンのボーナス払い、車の車検などあって大幅に赤字ですが、予算にあったものを先に使った月だから大丈夫なんだと納得しました。

2月の『家計塾』は1カ月前から試みての内容なので、食材の使い方などもだしながら生活を振り返ってみたいと思います。

今年はこの予算を意識して生活していきます。



二月 オンライン土曜例会

二月土曜例会 2月12日(土)

司会 朝倉(桜山)

讚美歌 320番

読書「人生の急所をきめる人」

思想しつつ生活しつつ

総リーダー

新年度に向かつて

推進委員 小佐野

あなたの声から

総リーダー候補紹介

2020年家計報告から

真駒内方面生活係リーダー 小寺

皆で家計簿をつけましょう

2020年度

全国農村愛土生活研究会

新入転入お客様紹介

実務報告

讚美歌 312番

出席者紹介

曜日が変われば仕事を持つ人など出席できる人がいるのではと、土曜例会も持つことにしました。4日(木)の例会と内容を少し変え、忙しい人にお勧めのクラウド家計簿のつけ方を内容に入れ、出席しての感想などたくさんの方の声を聞きたいとプログラムを考えました。そのやり取りは、実際に会って話しているような、慕わしい温かい空気の流れる時間になりました。「すごく久しぶりの例会です」と約30人の有職の人が出席できたことは嬉しいことでした。

総リーダー 阿波加 寿美代

実務報告 実務 広報部

出席 85人

皆で家計簿をつけましょう

計算をしてくれるので、忙しい人や高年の人にもお勧めのクラウド家計簿を、実際に画面を動かしてつけ方を見てもらい、つけている人の感想を聞きました。

※ kakei+ をつけて

真駒内方面 本庄 千佐子

アップデートされ使いやすくなって、楽しく簡単に毎日記帳できていて、グラフで一目瞭然なので買い物のブレーキになっています。スマホで入力しているので、通勤のバスの中やご飯が終わって忘れないうちにすぐ手に取って入力できるので続けていこうと思っています。

厚別方面 木村 裕子

kakei+のアンバサダーになり、完全記帳ができています。自分にピッタリ。12カ月つけていけそうです。



例会感想

平岡方面 安住 香代子

総リーダーが大ホールにいるので、例会の雰囲気を感じつつ他の皆さんは自宅からなので、最寄にいるようで両方とも味わえました。

新札幌方面 小亀 貴子

久しぶりの例会で何も手につかずにいました。オンラインでも例会の雰囲気を感じられてびっくり。クラウド家計簿にチャレンジしたいですが、今までの家計簿に慣れているので考えているところです。

西方面 荒木 千夏

はっきり顔が見えて、初めての人がいっぱいいました。kakei+のつけ方を実際に見られて、いつかチャレンジしてみたいと思います。

三角山方面 深町 雪絵

最寄のグループラインが始まり、皆がどんな生活をしているか、レシピ紹介など、いつもよりも最寄につながっている感がある年になりました。

山鼻方面 中嶋 奈緒美

皆さんの顔が見られて懐かしい顔も見られて、出席して良かったです。

子ども部

親子が気持ち良く楽しく

子ども部乳幼児Gリーダー 小林 睦子

毎年春に「子どもと母の時間しらべ」をしています。今年度は、新型コロナの影響で集まれず、調べができませんでした。

子育てサロンも閉じられ遊びに行くところもなくなり、子どもと母はどんな生活をしているのか、気になりました。そこで夏休み中に「親子のおきる、たべる、あそぶ、ねるの時間しらべ」の用紙を、乳幼児の母みんなに(55家庭77人)配りました。

夏休み後、31家庭38人の調べと、感想が届きました。

- ・昨年は子供と一緒に食事をとれていなかったが、今年は一緒に食べる時間が増えた。(5才 男)
- ・食べるのが遅いので、朝食時最後にポツンと一人でいつまでも食べているのが気になっている。(3才 男)

9月と10月に、短い時間でしたが中心での乳幼児グループリーダー会を持つことができました。「時間しらべ」を大きな表にして見合いました。「寝る時間が遅い」と思っていた人は、昼寝が長いことに気づき「ご飯を食べない、食が細いのか」と悩んでいた人は、ちょこちょこ食べていたことに、お母さん自身が気づくことができました。

時間だけでなく、それぞれの家庭の様子が見え、みんなでき共有できた喜びが感じられました。

いつもは、方面の中でも見合っていましたが、今年度はそれができません。送られて来た「時間しらべ」を、年齢順に「ねる・たべる」が、分かる表にまとめ、母自身が気づけるように、また、工夫できることを見つけてほしいと、子ども部に届いた「時間しらべ」とみんなの感想も合わせて12月に提出者全員に郵送しました。

まとめの表を受け取った母達が、寄せてくれた感想です。

- ・毎年時間しらべをして、生活時間のマイナーチェンジを繰り返して、やっと今の生活時間なんだと、振り返ることが出来ました。
- ・数カ月で状況が変わるので、この時こんなことに悩んでいたんだなあと思いました。
- ・初めて参加しました。人と比べて見ることは、大事なことだと思いました。

拡大U6プロジェクトの集まりで、榎田先生が話された「就寝時刻が遅い、朝は短い時間で食事をし、夕方も本当に忙しい生活をしているが、母もどうにかしたいと思っている。対話を通して目指す生活に近づけるように、ちょっとしたヒントと一緒に考えていくと、生活が少しずつ変わっていく」という言葉と重なりました。

お母さんが思った通りに上手くいく日も、いかない日もありますが、親子が気持ち良く、楽しく過ごして欲しいです。



2021年度 札幌友の会創立 90周年に向かって



子どもが笑顔で過ごせる

社会を願って②

子ども部 小堤 範子

創立者が願われた「幼い子どもが育つ苗代をよきものにした」と友の会は若い家庭に働きかけています。

1969年

1969年 1370のための音楽会が始まる

幼児生活団の子ども達と音楽を学ぶうちに「是非、子ども達に本物のオーケストラの演奏を聴かせたい」と、願うようになった。同時に多くの子ども達にも無形の豊かさを広げたいと、道新ホールで、

伝統ある北大オーケストラ部の演奏で開かれた。その後1988年には、文化庁からの子どものための助成金制度により、札幌からの助成を受け、念願の札幌交響楽団を迎えることが出来た。途中、市の財政逼迫から受けられなくなったが、札幌交響楽団が、その意味を受け他の演奏会と比べ格段の配慮をしての出演料で現在に至っている。

また、2000年からは、待望の札幌コンサートホールKitaraでの開催となっている。

2011年の東日本大震災直後の第43回子どものための音楽会は、各公演、催し物が中止する中、この時こそ子ども達に美しい音楽、楽しい時をと思い開催し

会券売り上げの全額を被災地支援の為に差し出した。その後も札幌市に被災地から避難した子ども達を音楽会に招待している。

1977年

1977年 小学生グループ会ができる

子どもが持っている「よくなりたくい願う力」が強められるように、子ども自身に働きかけることを主眼において、子どもの集まり、母の集まりを持っている。

小学生のクリスマスの集い

創立者の教育思想の根底に「信仰の土台に立って、善そのものを慕うように、子どもが互いに助け合うこと」があり、その上でもクリスマス会を大切に考えている。70年誌に「1984年クリスマスの意味を知り、ふさわしい時を持ちたいとの母の願いから、小学生のクリスマスの集いを初めて持つ」とあり、小学生100人、母親50人の出席があった。クリスマス会は、この数年は子ども達の聖誕劇を中心に、子どもと共にクリスマスの意味を尋ねている。同時に準備会で子ども同志の交わりの中、徐々に真剣に役に向かい協力し合う姿が、本当に慕わしくなっている。昨年度は、参加者が減り、また学校の行事と準備会が重なり、聖誕劇が出来ず、讚美歌中心となったが、子ども達の家族も一緒に牧師の話聞き、昼食を共にする穏やかな時となった。帰宅後、家庭での楽しい会話に繋がったと聞き嬉しく思う。形に囚われず大切に続けていきたい。

木工ひろば

1987年、お泊り会に田中周子さんに、工作指導をして頂いたことから始まっている。自由学園の生徒や会員の画家であるご主人に指導をして頂いたこともある。作りたい物を自分で決め、木材を選び真剣に取り組む。中には設計図を用意する子どもも。子ども達の集中力には驚かされる。近年は単独での開催や、お泊り会のプログラムに入れることが難しくなり休止している。



お泊り会 自分ことは自分ですることから始まって、家族や周りの人に力を出す喜びを味わい、友達と仲良しになる中で、経験してほしいと願うプログラムを組み立てている。夕食作り、銭湯での入浴、靴下洗い、針と糸を持つての手仕事など自分のことから、家族への助けに繋がっていった欲しい。

大人の願いとは違い、夜遅くまで起きて騒ぐ、友の家を走り回ることもあるが、そのことが子ども同志の連帯を深めている。私たちは、頭ごなしに叱るのでなく、子どもと向き合うことを教わっている。

母の集まり 地域を超えた集まりを年2回している。生活習慣、交友関係、携帯電話、ゲームなど学年に分かれての話し合いをしている。会員の信頼の中、発達障害のことが話題に出されることもあるが、真摯で聡明なやりとりで心動かされている。今年度は、ほとんどの活動が中止になる中、8月に地域ごとブロックに分かれ、集まりを持つことが出来た。集

まった母からはなかなか話すことができない状況に、待ち望んでいたとの声も聴かれた。

2016年10月より今までの小学生グループ会の内容から、北海道新聞に「生活百科、おやこでトライ」を月1回、一年間掲載し、米とぎ・靴下洗い、ボタンつけなど、家事を親に任せるのではなく、家族の一員として親子で一緒に家庭でできることを伝えた。

2017年 子ども友の会を始める

子ども自身への働きかけを強めたいとお泊り会、クリスマス会の年2回の関わりだけでなく、通年で子ども達と一緒にやっていきたいと、登録制が始まった。学年、地域を越えた集まりの中で、料理、工作、読書を通じて気持ちを言葉にすること、みんなの気持ちを聞くことをしている。やりたくない時には、お部屋でのんびり過ごすだけでも良いと考えている。ポロリと聞こえてくる子ども達の声にも、耳をすませる私達スタッフでいたい。

私達が今まで経験したことのないコロナ禍で多くの集まりが休止になった。子ども達は大人以上の不安で、不自由さを感じ、たくさん我慢し、あきらめてきた。子ども達の一年は、この時だけ、こんな状況でも何か出来るように本気になって、皆で考えたい。

「社会の発展は人間の力に依存し、その源泉は教育にある」と新聞で読んだ。教育は、子どもの育つ家庭の中にある。90周年に友の会から発信していきたい。